らざれば、心におきて安きなり、然るに能品事々敷取飾て贈れるは、上を敬する誠より、其心を盡せるに相違もなけれ共、其心遣が却て痛入て安からぬ也、凡の人情思ふ儘成には心殘らず、心に任せぬに殘念のたえぬもの也、去ば能品取揃て贈れるは、元々己が思ふ儘の贈物成なり、おのづから殘す處なしといふ心より、又も〳〵とおもふ心の誠を失ふ也、心にまかせぬ漸少の贈物せるは、其漸少なるの殘念より、又も〳〵贈たきと云心忘られず、其人の誠も益々進ぞかしと宣ひし、

〔嬉遊笑覽八忌諱〕狂言記、福わたしに、ふくはなんじや、ありの實で御ざりますなど見ゆ、今世にも外よりくれたる物を分ちて人に贈るを、福わけといふ、